

提 言 書

令和4年10月27日

安曇野市議会

目 次

安曇野市におけるエネルギーの
地産地消の推進に関する政策提言 P 1

「不登校支援のさらなる充実に向けて」
政策提言 P 5

松本糸魚川連絡道路建設に伴う
市内経済の活性化に関する政策提言 . . P 11

安曇野市におけるエネルギーの 地産地消の推進に関する政策提言

総務環境委員会

1 現 状

国連が採択した SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、世界の国々が様々な分野で取り組みを進めている。我が国においても 2030 年には温室効果ガス排出量を 2013 年比で 46%削減、2050 年には完全なカーボンニュートラルを実現することを目標に定めている。また長野県のゼロカーボン戦略では、2030 年までに温室効果ガスの排出量を 6 割減と再生可能エネルギー生産量を 2 倍に引き上げる目標を立て、2050 年には「信州のすべての屋根に太陽光パネルを」目指す姿としている。

本市においては市温暖化防止実行計画で、2030年度までに温室効果ガスの排出量 26%削減を目標としている。本年度は市環境基本計画の中間見直し年にあたり、併せて環境行動計画の策定を行う。持続可能で足腰の強い自治体をつくっていくためには、食糧自給、エネルギー自給、経済的な自立（自主財源の確保や域内の経済循環）の仕組みを作っていくことが肝要である。特にエネルギー自給の面で、本市は年間を通して日照量が多く、北アルプスの雪解け水と豊富な湧水、森林、温泉もあり、太陽光や小水力、バイオマス、地熱といった再生可能エネルギーの潜在力が高く、自立地域を目指すことにおいてもエネルギーの自給は必須の課題である。その中で総務環境委員会としては、エネルギーの地産地消の推進について提言を行う。

2 課 題

- (1) ゼロカーボン達成とエネルギー自給・自立に向けての具体計画の不在。
- (2) ゼロカーボン達成のためには、エネルギーの省力化だけでは実現できない。
カーボンフリーのグリーンエネルギーの活用や再生可能エネルギーの創出が必要になる。
- (3) 市内におけるエネルギーの地産地消システムの不備により、域外にある発電施設や電力会社に依存することになり、電気料金等多額な費用を域外に流出している。
- (4) 自主電源の不備は、災害時の対応が後手になる。

3 提 言

(1) 市全体としての取り組み

- ① ゼロカーボン宣言を行い、市をリーダーに市民、事業者への啓発を行い、それぞれの立場での取り組みを行う。
- ② エネルギー地産地消計画の策定
太陽光、小水力、バイオマス、地熱など安曇野にあった発電の方式を考慮し、エネルギーを地産地消する具体計画を立てる。
- ③ エネルギーの地産地消を推進する専門部署を設置する。
- ④ エネルギーを地産地消するシステムや仕組み（地域発電、地域電力会社）の導入を、松本平ゼロカーボン・コンソーシアムなど広域連携の中で検討していく。
- ⑤ エネルギーの自給自足や、エネルギーを使わないライフスタイルへの市民意識の醸成や啓発を行う。

(2) 公共施設での取り組み

- ① 今後新たに建設する公共施設に太陽光発電及び蓄電池の設置を必須とする。また既存施設についても適宜設置を検討する。その際、民間事業者によるP P Aなど、民間活力を積極的に採用する。
- ② 公共施設における電力使用をグリーンエネルギー及び地域電力会社からの調達を目指す。

(3) 民間事業施設及び民間一般住宅での取り組み

太陽光発電及び蓄電池の設置を促進する施策を作り、すべての屋根に太陽光発電パネルを設置することを支援し、市内企業及び市民の参画を促す。

調査研究の経過

年月日	検討事項
令和3年12月16日	総務環境委員会協議会 ・政策提言テーマについて協議
令和4年1月14日	総務環境委員会協議会 ・政策提言テーマについて協議 →テーマは、「エネルギーの地産地消の実現に向けて」に決定
令和4年1月26日	総務環境委員会協議会 ・政策提言スケジュール等について協議
令和4年3月15日	第6回全員協議会 ・各常任委員会の政策提言テーマを発表
令和4年5月25日	総務環境委員会協議会 ・「安曇野市における脱炭素社会づくりに向けた取り組みについて」市環境課職員と意見交換
	議員研修 ・演題「脱炭素社会づくりに向けた地域戦略」 ・講師：信州大学茅野恒秀准教授
令和4年6月14日	総務環境委員会協議会 ・先進地視察について協議
令和4年7月19日	総務環境委員におけるオンライン勉強会 ・内容：地域循環が持続可能な社会を創る ・講師：一般社団法人中濃地域内循環イニシアチブ 代表理事小森胤樹氏
令和4年7月26日	行政視察（梓川土地改良区の取り組みについて）だったが、感染警戒レベル4となり延期となる
令和4年7月29日	行政視察（NPO法人上田市民エネルギーの取り組みについて）だったが、感染警戒レベル4となり延期となる
令和4年8月25日	行政視察（オンライン視察） ・松本市エネルギー地産地消計画について ・松本市ゼロカーボン実現条例について
	総務環境委員会協議会 ・地域脱炭素移行・再エネ推進交付金について
令和4年9月16日	総務環境委員会 ・政策提言について協議
令和4年10月12日	総務環境委員会協議会 ・政策提言（素案）について協議 ・議長への提案を決定
令和4年10月24日	政策討論会議 ・提言書（案）について



「不登校支援のさらなる充実に 向けて」政策提言

福祉教育委員会

1 現状と課題

安曇野市議会福祉教育委員会は、市民の皆さんの安心・安全な生活と福祉・教育のために取り組んでいます。社会問題となっている児童生徒の不登校に関し、「不登校支援のさらなる充実に向けて」をテーマに、市議会から市行政に政策提言ができるよう検討を進めてきました。不登校の問題は、さまざまな原因がありますが、政策提言を通じて不登校の児童生徒が一步を踏み出せるよう力になりたいと願っています。

安曇野市内の小中学校の児童生徒の不登校の割合は、国や県の平均よりも高く、特に小学校の児童の不登校の割合が高いとのことです。令和2年度において、小学校児童千人当たりの不登校児童数は、国が10人であるのに対し、市では15人と、割合にして1.5倍となっています。不登校児童生徒を増やさないことが大切ですが、現在困っている子どもたちのために学校内外で一層多様な学びの支援が必要とされています。

福祉教育委員会は、安曇野市教育委員会の学校教育課、教育指導室、教育支援センターの教職員との勉強会を2回実施しました。また、当事者（不登校になっている児童生徒）やご家族の思いや願いに寄り添い、市民の皆さんのご意見やご要望に耳を傾けてより良い政策提言ができるように、第9回議会報告会（令和4年7月23日開催）において、市民の皆さんから政策提言（案）についてのご意見ご要望をいただきました。そして、松本市教育委員会とこども部に、及び佐久市教育委員会にオンライン視察をしました。その上、学校や中間教室等の様子を知るために、穂高東中学校と堀金小学校と教育支援センター（中間教室「けやき」を含む）を視察しました。その他、市内の民間のフリースクールと市内の不登校の子どもの親の会から要望書等をいただきました。これらのことを踏まえた上での福祉教育委員会からの政策提言です。

2 提言

（1） 不登校への理解のための啓発の促進

家庭、学校、行政、地域の人たちは、不登校ということへの十分な理解と適切な対応ができていないことが多いです。どういった対応を行うにも、各人、各部署と関わるすべての人たちの連携は必要不可欠であり、それには信頼関係の構築が大切です。

そのため、講演会やポスターなどの広報や個別相談など、さまざまな手段を駆使して、すべての市民の不登校への理解を促し、温かく見守って支援ができるようにするための啓発の促進をお願いします。また、学校は元より、学校以外の学びの場に関する情報提供をすべての児童生徒の保護者に行ってください。

(2) 中間教室（教育支援センターと各小中学校）と教育支援センター等の相談業務・情報提供等の充実、登校支援のハートフルフレンド事業の導入の検討、ICT等の活用、不登校等対策連絡協議会等の設置



教育機会確保法（平成 29 年施行）に基づいて、学校復帰のみを目的とすることなく、多様な学びの支援が必要であり、児童生徒の「社会的な自立」に向けた支援をさらに充実してほしいです。その取り組みとして次のことを提言します。

- ・教育支援センターの中間教室「けやき」と、各小中学校にある中間教室の支援体制の充実が必要で、人的（維持、増員）及び場所的（施設・設備）改善と併せて、教育支援センター等の相談業務、情報提供等の充実をお願いします。
- ・不登校児童生徒が安心感を持って自立に向き合うための登校支援のハートフルフレンド事業（佐久市）の導入の検討をしてください。地域の若い方や僧侶など、より子どもの心に寄り添える方がスポーツや相談などを通じて子どもたちに協力する登校支援事業です。
- ・不登校（傾向を含む）児童生徒に対する ICT 等を活用した学習支援と相談・指導（松本市）を検討してください。
- ・不登校等対策連絡協議会（佐久市）のような組織を設置し、「不登校対策・取り組みへの提言」をいただき、市の取り組みの一つの方針として活用するとともに、改善に向けた取り組み事例の共有化などを含め、より実践的なものとしてください。特に、当事者の声が届く仕組みを用意することが大切です。

(3) 子どもたちの居場所づくりを進めること、公設民営の中間教室の設置の検討、民間のフリースクールやそこに通う子どもの保護者や不登校の子どもの親の会などへの支援

- ・新規を含め、子どもたちの多様な居場所づくりを進めてください。
- ・教育支援センターの中間教室「けやき」や各小中学校にある中間教室の充実は元より、多様でより柔軟な公設民営の中間教室（子どもの支援・相談スペース）（松本市では「はぐルッポ」）の設置の検討をしてください。
- ・民間のフリースクールなどの不登校児童生徒を支援する民間施設やそこに通っている子どもの家庭（保護者）への経済的支援を含む必要な支援や、不登校の子どもの親の会などへの支援の取り組みをお願いします。その際には、不登校児童生徒やその保護者の要望をよく聞いて進めてください。また、そういった施設にも学校にも行くことができない児童生徒とその家庭（保護者）への支援などの積極的な検討もお願いします。

調査研究の経過

年月日	検討事項	
令和3年12月10日	福祉教育委員会 ・政策提言テーマについて協議開始	
令和3年12月14日	福祉教育委員会協議会 ・政策提言テーマについて	
令和3年12月21日	福祉教育委員会協議会 ・政策提言テーマ、具体的施策、手法について	
令和4年1月14日	福祉教育委員会協議会 ・各委員から提出された政策提言テーマ案を元に協議	
令和4年1月25日	福祉教育委員会協議会 ・政策提言テーマについて →テーマは、「不登校支援のさらなる充実に向けて」に決定	
令和4年3月15日	第6回全員協議会 ・各常任委員会の政策提言テーマを発表	
令和4年3月25日	福祉教育委員会協議会 ・「安曇野市における不登校支援の現状について」勉強会 市学校教育課職員と意見交換	
令和4年5月16日	福祉教育委員会協議会 ・「教育支援センターの現状と課題—中間教室の運営と相談業務等について—」勉強会 市学校教育課、子ども家庭支援課職員と意見交換	
令和4年6月15日	福祉教育委員会協議会 ・政策提言に係る行政視察について	
令和4年6月28日	福祉教育委員会協議会 ・政策提言に係る行政視察について（進捗状況等）	
令和4年7月11日	福祉教育委員会協議会 ・政策提言について協議 ・政策提言に係る行政視察について（進捗状況等）	
令和4年8月4日	行政視察（オンライン視察） 松本市教育委員会とこども部 ・不登校児童生徒への支援について	
令和4年8月19日	行政視察（オンライン視察） 佐久市教育委員会 ・不登校児童生徒への支援について	

令和4年9月5日	穂高東中学校視察 ・不登校生徒の現状と支援状況について	
令和4年9月7日	堀金小学校視察 ・不登校児童の現状と支援状況について	
令和4年9月20日	福祉教育委員会 ・政策提言（素案）についての協議	
令和4年10月3日	教育支援センター中間教室「けやき」視察 ・不登校児童生徒の現状と支援状況について 福祉教育委員会協議会 ・政策提言（素案）についての協議	
令和4年10月7日	福祉教育委員会協議会 ・政策提言（素案）についての協議 ・議長への提案を決定	
令和4年10月24日	政策討論会議 ・提言書（案）について	

松本糸魚川連絡道路建設に伴う 市内経済の活性化に関する政策提言

経済建設委員会

1 現 状

安曇野市は、雄大な北アルプス連峰の東側に位置し、総面積は 331.78 平方キロメートルにわたり、北アルプスの山々から湧き出た清流（梓川・黒沢川・烏川・中房川・乳川・穂高川・高瀬川等）によってできた複合扇状地で、地下に水がしみ込んでしまう為、先人たちの知恵と力によって灌漑用に約 15 キロメートルの拾ヶ堰の開削が行われ、県下有数の稲作地帯となった。

扇端部では、国土交通省から「水の郷」の認定を受け、環境省の「名水百選」に選ばれている、「安曇野わさび田湧水群」があり、ワサビの栽培やニジマス・信州サーモンの養殖が行われている。また、西山山麓には「国営アルプスあづみの公園」や穂高温泉郷等による温泉施設も数多くある。また、市内には数多くの美術館や記念館が点在しており、県内有数の観光地・別荘地となっている。

2 課 題

安曇野市は、松本市から松川村までの、約 18 キロメートルにわたって、南北線として、西山山麓には山麓線、中央に、大型広域農道・国道 147 号線があり、東側に、長野市に続く国道 19 号線等の道路整備がされているが、東から西に向かったの道路整備が不十分な状況である。高速道路、安曇野インターから西山山麓に向かう道路もいくつかあるが、スムーズにアクセスできるようになっていないのが課題である。

3 提 言

このような状況の中で、松本糸魚川連絡道路（松糸道路）の計画が進み、安曇野北インター（仮称）から糸魚川市までの道路整備が行われることとなります。安曇野市が単なる通過地点とならないこと、この道路整備が市内経済の活性化につながる事業となるよう、以下の 3 点について、提言をします。

（1）松糸道路建設に伴う東西線の道路整備

松糸道路から西山山麓にアクセスする主要道路整備を進めること

（2）計画的な土地利用による開発事業

企業誘致による雇用の創出、人口増加、移住定住の推進をすること

(3) 自然を大切にしたい体験型スポーツ観光の充実

アウトドアスポーツを中心に体験型の新たな安曇野観光の推進をすること

以上、3点の提言について、市において積極的に取り組んでいただくよう要望いたします。

調査研究の経過

年月日	検討事項	
令和3年12月13日	経済建設委員会 ・政策提言テーマについて協議	
令和4年1月13日	経済建設委員会協議会 ・政策提言テーマについて →テーマは、「松糸道路建設に伴う市内経済の活性化」に決定	
令和4年3月15日	第6回全員協議会 ・各常任委員会の政策提言テーマを発表	
令和4年4月21日	経済建設委員会協議会 ・今後の調査・研究内容について協議	
令和4年7月4日	市内現地視察 ・東西線予定地・安曇野北インター（仮称）予定地・青木花見産業団地等の視察	
令和4年7月5日	千曲市視察（オンライン） ・屋代地区開発について	
	須坂市視察（オンライン） ・須坂長野東インターチェンジ周辺開発について	
令和4年7月13日	経済建設委員会協議会 ・視察を踏まえた意見交換 ・政策提言の内容についての協議	
令和4年9月21日	経済建設委員会 ・政策提言（素案）についての協議	
令和4年9月30日	経済建設委員会協議会 ・政策提言（素案）についての協議	
令和4年10月11日	経済建設委員会協議会 ・政策提言（素案）についての協議 ・議長への提案を決定	
令和4年10月24日	政策討論会議 ・提言書（案）について	